

## 地震工学委員会

## 平成 18 年度第 2 回（通算第 22 回）委員総会 議事録（案）

I 日時 : 平成 18 年 12 月 20 日（水）

II 場所 : 土木学会講堂

## III 総会成立の確認

総員 120 名のうち、2/3 以上にあたる 85 名が参加（出席 51 名、代理出席 2 名、委任状 32 名）し、総会として成立することが確認された。

## IV 配布資料

資料 22-1 平成 18 年度第 1 回（通算第 21 回）委員総会 議事録（案）

資料 22-2 平成 19 年度・20 年度委員長の選出（選挙管理WG）

資料 22-3 土木学会論文賞の選考・選考経過

資料 22-4 平成 18 年度小委員会活動中間報告

資料 22-5 平成 19 年度事業計画

資料 22-6 第 29 回地震工学研究発表会の開催報告

資料 22-7 拡大運営幹事会の開催報告

資料 22-8 地震工学委員会&ギリシャ地震工学会 合同WS開催について

資料 22-9 「ジャワ島南西沖地震・津波災害現地調査」「スマトラ島沖地震津波詳細現地調査」に関する報告

資料 22-10 「地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会」設立趣意書（案）

## V 議事

## 1. 開会挨拶 家村委員長

小委員会活動が活発に行われていることと同時に、昨年度・今年度の活動を踏まえた挨拶が行われた。

## 2. 議長選出

特に立候補がなかったため、運営幹事会から中村 豊委員を推薦し、議長に選出された。

## 3. 前回議事録（案）の確認

一部修正のうえ、承認された。

## 4. 平成19・20 年度委員長選挙の結果について

- ・ 一次投票が大塚久哲、大町達夫、川島一彦、小長井一男（氏名五十音順）の 4 名の候補者（被選挙人）に対して行われた結果、過半数の票を得た候補者は無かった。そこで、選出要領（正式名称は何ですか？）に従い、得票数上位 2 名の候補者 大町達夫・川島一彦（氏名五十音順）を対象とした出席委員による二次投票を実施した結果、過半数の票を得た川島一彦委員が、平成 19・20 年度地震工学委員長に選出され、総会で承認された。

・

## 5. 土木学会各賞の候補推薦

- ・ 家村委員長より論文賞候補 1 名、論文奨励賞候補 3 名を推薦した経緯及び理由について説明があった。論文奨励賞候補が多いのは、若手研究者に今後の活動のチャンスを与えたい旨の内容であった。

## 6. 平成 18 年度小委員会活動中間報告について

- ・ 耐震基準小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 地震防災技術普及小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 地震被害調査小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。

- ・ 地震時保有耐力法に基づく耐震設計法研究小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 統合地震シミュレータ研究開発小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 地下構造物の合理的な耐震対策研究小委員会の平成 18 年度活動報告がなされ、平成 18 年 6 月に活動が終了した旨の説明があった。
- ・ 震度計の設置推進と震度データの利用高度化に関する研究小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 断層変位を受ける橋梁の計画・耐震設計に関する研究小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされ、活動期間を平成 19 年 4 月から 1 年延長したい旨の説明があった。
- ・ 数理解物理的手法に基づく耐震設計法の新展開に関する研究小委員会の平成 18 年度活動中間報告がなされた。
- ・ 地震リスクマネジメント研究小委員会の平成 18 年度活動計画が報告された。
- ・ 地震動研究の進展を取り入れた公共社会インフラの設計地震力に関する研究小委員会の平成 18 年度活動計画が報告された。

#### 7. 平成 19 年度事業計画

- ・ 平成 19 年度事業計画及び予算要求調書に関する説明がなされ、承認された。
- ・ 平成 19 年度行事計画書に関する説明がなされ、承認された。

#### 8. 第 29 回地震工学研究発表会の開催について

- ・ 大塚実行部会委員長から第 29 回地震工学研究発表会の概要説明があり承認された。
- ・ 論文投稿期限は、従来、査読付き論文と査読なし報告では別の日を設定していたが、今回は同じ日になっているため、注意して頂きたい。
- ・ 査読依頼にはできるだけ協力してほしい。
- ・ 特別セッションは E-defense を川島一彦先生、福岡県西方沖地震を大塚久哲先生にお願いする。
- ・ 特別講演会の演題があれば考えてほしい。
- ・ 編集部会の地下構造物部門の主査は、岩楯先生とする。
- ・ 期限については年度末であり、他委員会の論文発表会と重複する可能性があるため再検討してほしいとの意見があった。

#### 9. 平成 18 年度第 1 回拡大運営幹事会議事録（案）について

- ・ 第 1 回拡大運営幹事会議事録（案）が紹介された。
- ・ 岡本賞の創設の可能性について家村委員長から説明があった。
- ・ 地震工学委員会では 2 年一期毎に継続意志確認を行っており、平成 19 年 4 月に実施する予定である。
- ・ 内規改正には理事会承認が必要となる。
- ・ 地震工学委員会の顧問・委員の総数は 120 名程度で維持し、運営方針も継続していきたいとの委員長の意見が紹介された。

#### 10. 第 2 回日本・ギリシャ「基礎の耐震設計、実験・観察、レトロフィットワークショップ」について

- ・ 運営幹事準備会のスケジュール・運営費用等について説明があった。
- ・ 海外からの参加費は無料にしたいとの説明があった。

#### 11. 「ジャワ島南西沖地震・津波災害現地調査」「スマトラ島沖地震津波詳細現地調査」に関する報告

- ・ 宮島委員からジャワ島南西沖地震・津波災害及びスマトラ島沖地震・津波被害調査団の派遣の経緯について説明があった

#### 12. 「地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会」設立趣意書（案）

- ・ 地下構造物の合理的な耐震対策研究小委員会が 6 月に活動が終了し、新たに上記小委員会を設立したい旨を説明し、承認された。
- ・ 初年度は、幅広く意見を聞き、その後テーマの選定を行い、後の 2 年で成果を上げる予定である。

#### 13. 閉会挨拶 川島副委員長より、閉会の挨拶があった。

以上